

こども相談室

突発性発疹について

千葉県小児科医会 阿部 克昭 医師



こども急病電話相談

受診するべきかどうか迷ったら

#8000

毎日夜7:00~翌朝6:00

※相談は無料ですが、通話料はご負担いただけます。

ダイヤル回線・IP電話・光電話・銚子市からは

☎043(242)9939

「こども急病電話相談」の時間が延長されましたのでお知らせします。

Q1 突発性発疹ってどんな病気?

主にヒトヘルペスウイルス6型(HHV-6)、一部はヒトヘルペスウイルス7型(HHV-7)で起こります。39~40℃台の高熱が3~7日間続き、熱が下がるのと前後して発疹が現れます。

発疹は3~4mm程度の楕円形に近いピンク色で、ほぼ平らか、ごくわずかに周囲より盛り上がります。かゆくはないようです。体幹(胸、おなか、背中)や顔から始まり、1日ほどかけて手足にも広がります。ひじやひざより先には現れないこともあります。発疹は1~数日で痕を残さず消えてしまいますので、薬を塗る必要はありません。

Q2 原因は何? うつるの?

HHV-6はほとんどすべての人が、3歳までに感染しています。そのうち突発性発疹になるのは2割ほどで、大半は症状がないまま感染しています。ウイルスは体内に一生残っており、唾液などの体液から体の外に出てきます。主に家族内で感染するウイルスなので、突発性発疹にかかった子どもを隔離する必要はありません。

生まれたばかりの赤ちゃんにはお母さんから受け継いだ抗体があるため、HHV-6に感染しません。このため、突発性発疹は生後6か月~1歳半ごろに多い病気です。

Q3 合併症にはどんなものがあるの?

突発性発疹では10~15%に熱性けいれんを合併するといわれており、時にやや長い(5分以上)けいれんや、一日に何度も熱性けい

れんを起こす(けいれん群発)ことがあります。けいれんを起こしてしまったら救急車で病院に運ばれることがほとんどですが、救急車が来るまでの注意点として、①口の中にももの(割りばしやタオルなど)を入れない、②吐いてしまうことがあるので仰向けに寝かさず、横を向かせる、③体を強くゆすらない(首が振り回されてしまう)ことに注意しましょう。

HHV-6による脳炎や脳症もまれにあります。けいれんで始まることが多いのですが、視線が合わず、名前を呼んだり、あやしても反応がない、異常に泣き叫んでなだめることができないなどの症状もあり得るため、このような場合にも緊急で受診が必要です。

Q4 かかったらどうしたらよいの?

原因ウイルスを駆除して早く治すための治療法はありません。食欲がないことも多いのですが、水分(イオン飲料やミルクも可)はしっかりとらせてあげましょう。

一方、赤ちゃんの発熱で、熱以外の症状があまりないものとしては他に、尿路感染症が重要です。正しい診断がつく前に抗菌薬(抗生物質、抗生剤などと呼ばれることもあります)を飲んでしまうと、尿路感染症の原因菌がわからなくなり、治療が難しくなってしまいます。

このため、乳幼児の発熱で熱以外の症状があまりない場合には、抗菌薬を使わないことが原則です。抗菌薬を使う場合には、必ず先に尿検査を行います。ご家庭で注意すべきことは、きょうだいの薬を飲ませないこと、以前熱を出した時にもらった「抗生剤」を飲ませないことです。